



2023年11月10日

各 位



会 社 名 ふらっとホーム株式会社
 代表取締役社長 鈴木 友 康
 コード番号 6836 東証スタンダード
 問 合 せ 先 取締役執行役員兼管理本部長
 福留 正邦
 (TEL 03-5213-4376)

第2四半期累計期間業績予想と実績値との差異及び 通期業績予想の修正並びに特別損失の計上に関するお知らせ

2023年5月12日に公表した2024年3月期第2四半期累計期間業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、最近の業績動向を踏まえ、2023年5月12日に公表した2024年3月期通期業績予想につきましても下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 2024年3月期第2四半期（累計）個別業績予想数値と実績値との差異(2023年4月1日～2023年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	572	△ 32	△ 32	△ 35	△ 23.07
実績値 (B)	461	△ 66	△ 66	△ 70	△ 46.74
増減額 (B - A)	△ 110	△ 34	△ 34	△ 35	
増減率 (%)	△19.3	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2023年3月期第2四半期)	446	△ 66	△ 67	△ 72	△ 54.16

2. 2024年3月期通期個別業績予想数値の修正 (2023年4月1日～2024年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	1,278	11	11	8	5.27
今回修正予想 (B)	1,055	△ 80	△ 57	△ 62	△ 40.87
増減額 (B - A)	△ 223	△ 91	△ 68	△ 70	
増減率 (%)	△17.4	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (2023年3月期)	994	△ 98	△ 95	△103	△ 75.93

3. 差異及び修正の理由

前事業年度は第2四半期以降急速に一部半導体の調達が困難となり、当社の事業は大きな影響を受けました。半導体不足による部材供給滞りの影響が現在もまだ続いていることに加え、予定していた大型案件の出荷時期の遅れが生じており、さらに、開発を加速して市場に投入した第二世代製品の市場への浸透には予想以上に時間がかかっています。このため、当第2四半期累計期間の売上高は461百万円となり、当初業績予想に対してIoT事業の減収が99百万円、ネットワーク関連商品など一般商材の減収が10百万円、合計で売上高の減少は110百万円となりました。これにより四半期純利益は70百万円の損失となり、当初業績予想を35百万円下回る結果となりました。

当社は、コロナ禍、半導体供給問題の経験を踏まえ、これまでのハードウェア中心の事業形態から、ソフトウェア・サービス中心の事業形態への転換を加速しております。具体的には、現事業領域では、OpenBlocksやアプライアンス製品に搭載されている自社開発ソフトウェアの事業強化に取り組んでおります。また、新事業領域においても、ソフトウェアやサービスの強みを生かした収益化に取り組むとともに、従来より研究してまいりましたWeb3にかかわる取り組みとして、データ流通サービスの実証開発、本番運用を想定した「日本酒輸出増プラットフォームモデル実証プロジェクト」を、農林水産省の補助金事業として当第2四半期から開始しました。

現在、半導体の供給は徐々に回復しつつありますが、半導体供給不足の影響による大型案件進展の遅れを解消するには時間がかかっています。厳しい事業環境の中にありますが、将来に向けた事業転換、新規事業を推進してまいる所存です。

この結果、当事業年度については、一般商材など非IoT事業の売上高は408百万円と当初業績予想と同額を見込んでおりますが、IoT事業の売上高は647百万円と、当初業績予想に達しない見込みであります。

損益については、前述の「日本酒輸出増プラットフォームモデル実証プロジェクト」に係る費用及び補助金収入を合理的に見積もって算入しております。なお、当プロジェクトには翌事業年度に補助金が交付されることが決定しておりますが、最終的な補助金の額は、2024年3月末のプロジェクト実施期間終了後に提出する報告書の審査を経て確定します。今後のプロジェクトの進捗を踏まえ、プロジェクト及び補助金が当社の業績に与える影響が変動した場合には、速やかにお知らせいたします。

これらを踏まえまして、2024年3月期通期業績予想については、売上高1,055百万円、営業損失80百万円、経常損失57百万円、当期純損失62百万円に修正いたします。

これに加えて、国際情勢の変動による世界経済の混乱や部材の調達難、原材料価格の高騰などの今後の成行次第では事業環境が大きく変化するおそれがあります。業績予想に修正の必要が生じた場合には、速やかに開示いたします。

4. 特別損失の計上及びその内容

当社は、自社製品コンピューターの検査機器・金型等に係る工具、器具及び備品について減損処理を行い、当第2四半期累計期間において減損損失3百万円を特別損失に計上いたします。

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以上